

---

# 愛士、きみへ

かな子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛士、きみへ

### 【Zコード】

N7944D

### 【作者名】

かな子

### 【あらすじ】

かなし、きみへ。いとし、きみへ。あいし、きみへ。

## 序・劇中のマツオネジト

「〇・愛士、君へ」

「死なないで」

震える声がリピートされる。何度も何度も。真つ暗な視界の中で、彼女にはそれしか聴こえなかつた。

「死なないで」

痛みもなにも感じない。自分が横たわつているだらう寝台の冷たさも。全身麻酔をかけられているのだから当たり前だ。何故この声だけがはつきり聴こえるのかは解らない。

周りには誰もいないのだろうか。否、それはあり得ないだらう。霞む意識の中で彼女は思考する。記念すべき初めての“完成品”だ。出来損ないではあるけれど。そして今、それは息絶えようとしている。天才と呼ばれているとはい、彼ひとりに全てを任せるとは思えない。

「死なないで」

死なないよ。

根拠のない言葉を心の中で呴いて、彼女は微笑んだつもりだつた。声の主であろう彼を安心させるためだ。けれどそれも叶わないらしく、彼は繰り返し続ける。

「死なないで」

聴いたことがないほど哀しげな声が、彼女を蝕んでいく。実際に蝕んでいるのは他のものだが、彼女は何故か彼に殺されるのだ。という妙な確信があつた。それは祈りでもあつた。

「死ぬな」

ぶつり、それから音が途絶えた。

いやに男らしい、必死な声を最後に、彼女の耳には、もう何も聴

こえない。

それでも呟く。死なないよ。死ねないよ。

愛しい彼が、世界で唯一、本当に大事だと思える彼が、また笑つてくれるようにな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7944d/>

---

愛土、きみへ

2010年10月28日03時26分発行